水野先生、こんにちは。
週3回の電話カウンセリングの代わりにメールでご相談させていただくとき、必ずこの挨拶の言葉から始まりました。
2年4ヶ月の支援を卒業することとなり、この挨拶もいよいよ最後になるのかと思うと感慨深いものがあります。
先日、中学校を卒業した娘と一緒に卒業アルバムを見ていましたら、たくさんある行事写真の中に体育祭の写真がありました。娘が1年生のときのクラスのものです。明るく屈託なく笑うクラスメイトたちに交じって、隅っこにポツンと写り込む生気のない白い顔の娘。この頃にはすでに不登校気味だった娘が、がんばってかろうじて参加したクラス団体戦のときの写真でした。
この写真を見ただけで、あの頃の辛く苦しい思いが一気に噴き出してきて涙が出そうになりました。

娘も同じ気持ちだったようです。
それと同時に、もし水野先生にお会いしていなかったら、ペアレンツキャンプの存在を知っていなかったら私たち親子は今どうなっていたのだろうかと思いました。こうして「あのときはしんどかったね」と、親子で思い出として振り返ることができたのも、常に辛抱強く水野先生が私たち親子を見守り支えてくださったからだと思います。
娘が不登校になったのは、中学1年生の6月でした。
原因は今もはっきりとはわかりません。その頃友だちとの間に小さな諍いがあったことを後になって娘が話してくれましたが、それだけが原因ではないようでした。
朝になると、腹痛や気分が悪いなどの体調不良を訴えて休むようになりました。自己主張が苦手で引っ込み思案なところがありますが、何事に

もおおらかでマイペースだった娘が学校に行けなくなるという事実に動転した私は、比較的早く行動に出ました。不登校に関する書籍も夫婦でたくさん読みました。起立性調節障害といった病気があることを知り、検査もしました。
中学校のスクールカウンセリング、教育委員会が主催する市の相談センターなどにも足を運びましたが、どこに行っても言われる言葉は「子供さんを信じて待ちましょう」でした。信じたい気持ちはもちろんありましたが、まだ自立もしていない娘の自主性を尊重して待っていたら、このまま学校に行けない状態のまま中学校を卒業してしまうのではないか？
本当に子供のためにそれでいいのか？
私はその言葉をそのまま素直に受け入れることができませんでした。いつしか相談に行く足が遠のいていきました。
中学校側からは、不登校の子供たちが通う特

別教室への入室を勧められました。そこに入れば確かに出席日数はもらえました。テストも受けられます。でも、そこから教室に戻れた生徒は今までいないとも聞きました。私たち夫婦はあくまでも普通学級への完全復学にこだわり続けました。娘は不登校になった当初からずっと「学校には行きたい」という意志を示していました。それでも6時間すべて授業を受けられるときもあれば、登校しても教室には行かずに保健室や職員室に直行して結局そのまま自宅に帰る日があったりと、2学期に入って欠席することは少なくなりましたが登校が安定しない日々が続きました。毎日、学校へ行く行かないで一喜一憂し、綱渡りのような状態でした。

日によって登校と遅刻早退を繰り返している娘は、表面上は不登校の子供のようには見えませんでした。学校以外の外出も出来ますし、友だち

にも会えました。教室に入れなかった日でも唯一習っていた英会話の塾は一度も休むことなく通い続けました。

学校だけどうして行けないのか？ どうしてもっと頑張ろうとしないのか？

私はその頃、学校に行きたくても行けなくて苦しんでいる娘の気持ちよりも自分の気持ちを優先させていたように思えます。娘のことを、ただ自分のことを苦しめる存在のように感じたこともあります。

自分たちだけの力で頑張ることへの限界を感じました。心の底から、誰かに助けてもらいたいと思いました。

そんなとき、書籍を拝見したのをきっかけにメールでご相談させていただいた[illegible]を通じて、水野先生をご紹介していただきました。

水野先生と最初に電話カウンセリングでお話しさせて

いただいたのは11月3日の祝日でした。
問題解決支援コースをお願いすることとなりましたが、出来るだけ自分たちの力で克服したいという私たち両親の意志を水野先生は尊重してくださり、訪問カウンセリングは行わないで、当分の間はノートと電話カウンセリングのみでフォローしていただきました。それでもやはり登校が安定しない日々が続いたので、いよいよ水野先生のコーチングをお願いすることとなりました。
初回のコーチングは年明けの1月10日でした。
その日程を決めるときに水野先生が、「年明けのコーチングは[redacted]さんのところを一番に入れておきますから」と言ってくださったのを今でも覚えています。
そして娘は1月21日に水野先生や訪問カウンセラー、メンタルフレンドの方の力をお借りして、無事復学をすることができました。

そのときの私の心境は嬉しい気持ちももちろんありましたが、これから先の継続登校に対する漠然とした不安みたいなものもあって、手放しで喜ぶというよりはとりあえずホッとしたという感じでした。それでも、同じようなことを親だけで試みたときはうまくいかなかったことが、水野先生や訪問カウンセラーの先生が介入されることによって、スムーズに無理なく娘や中学校の先生方に受け入れられていったことに、やはりプロの力はすごいなと感心することしきりでした。

予想通りというか、娘の継続登校は決して順調とは言えませんでした。

恒常的に繰り返される体育の無断欠席や保健室直行の登校。家庭内での金銭に関わる問題。何度感情的になって、水野先生に泣きながら電話をしたかわかりません。でもその都度、水野先生は私たち親子を根気強く

諭し、時には急遽広島までコーチングに来てくださいました。私は、「何か問題が起きても水野先生がいてくださる、大丈夫」その思いをお守り代わりにして、娘の継続登校を見守り続けました。本当に心強かったです。
支援を卒業するにあたり、私たち夫婦が親としてどれだけ変わることが出来たのか、自分ではあまり自信がありません。
支援を受けるまで私は、自分は子供の自主性を尊重した放任主義に近い子育てをしていると思っていました。でも実際は自主性を重んじる、自立した子供になって欲しいといいながら、私とは性格の違う娘に、自分自身の価値感を押し付けるようなことを言動や態度で要求してきたような気がします。過干渉な子育てをしていました。それとは逆に、出来なくて当たり前のまだまだ子供の部分が残る娘に、完璧な大人の対

応を求めすぎてもいました。
それを気づかせてくれたのは、週3回の電話カウンセリングとノートで行われた水野先生とのやり取りです。自分の子育てを見直すきっかけとなり、そして少しずつでも変わろうと努力したことだけでも自分にとっては大きな変化であり進歩ではないかと思っています。
今春、娘は頑張って自分の志望する高校に合格しました。
胸を張って中学校の卒業式に出席し、そして今何の憂いもなく春休みを満喫している娘の姿を見られることが出来たのも、ペアレンツキャンプの支援を受けたからだと思っています。
これからは、水野先生の支援なしで高校生活を送ることとなりますが、何か問題が起こったときは「水野先生だったら、きっとこうおっしゃるだろう」と想像しながら、今まで受けてきた支

援の成果を少しでも発揮できたらと思っています。
親子共々、頑張ります。

最後になりましたが
水野先生、お世話になりました。
本当に、本当にありがとうございました。

2013年4月1日

[redacted]